

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2017年度（前期）指定公募
「市民の集い開催への助成」
完了報告書

【指定テーマ】

「看取り」での経験を語る会

【内容】

1、市民講座

第1回 みんな安気にいこまいか！住み慣れた地域で生きる～看取りの物語り～

日時；平成29年10月13日 14:00～16:00

場所；じゅうろくプラザ

参加者数；198名

第2回 みんな安気にいこまいか 住み慣れた地域で生きる

～お一人様でも大丈夫！在宅看取りについて考えてみませんか？～

日時 平成30年2月17日 13:00～14:30

場所；岐阜シティ・タワー43 まなびる一む

参加者数；55名

2、元気塾カフェ

第1回 島ちゃん先生に聞いてみよう！在宅看取りって大変なの！？

日時；平成29年9月29日 13:00～14:15

場所；岐阜シティ・タワー43 まなびる一む

参加者数；26名

第2回 島ちゃん先生に聞いてみよう！在宅看取りって大変なの！？Part 2

日時 平成29年12月11日 13:00～14:15

場所；岐阜シティ・タワー43 まなびる一む

参加者数；21名

申請者；若園 優

所属機関；社会福祉法人新生会 サンビレッジ岐阜 新生元気塾

提出年月日；平成30年3月23日

1、市民講座

第1回 みんな安気にいこまいか！住み慣れた地域で生きる～看取りの物語り～

日時；平成29年10月13日 14:00～16:00

場所；じゅうろくプラザ

参加者数；198名

●10月13日

時間	内容
13:30～14:00	開場
14:00～14:10	開催挨拶
14:15～15:00	<p>第1部 基調講演 実例の寸劇(独居、がん末期…)を通して、生き方を気軽に考える。 宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座教授 吉村学氏 劇団 サンサン</p>    
15:00～15:15	休憩 (参加者より質問用紙回収)

15:15～15:50

第2部

今から知っ得！納得できる医療福祉相談（会場参加型）

<座長>

宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座教授 吉村学氏

<パネリスト>

シティタワー診療所 医師 島崎亮司氏

歯科i・オーラルクリニック 歯科医師 森 康志氏

新生メディカル岐阜営業所 所長 郷春子氏

看取りを経験されたご家族 傍島秀樹氏、高島美香氏



15:50～16:00

閉会挨拶

第2回 みんな安気にいこまいか 住み慣れた地域で生きる

～お一人様でも大丈夫！在宅看取りについて考えてみませんか？～

日時；平成30年2月17日 13：00～14：30

場所；岐阜シティ・タワー43 まなびる一む

参加者数；55名

時間	内容
12:30～13:00	開場
13:00～13:10	はじめのことば
13:10～13:20	<p>寸劇【おひとり様でも大丈夫！私が決める、私の生き方】</p>
13:20～14:00	<p>5分で分かる「安気に生きるミニ講座」</p> <p>パネラー</p> <p>医師 島崎亮司氏（シティタワー診療所） 歯科医師 森 康志氏（歯科 i・オーラルクリニック） 薬剤師 長瀬瑞穂氏（たんぼぼ薬局 在宅事業本部） 司法書士 青木文子氏（青木文子司法書士事務所） ケアマネジャー 郷春子氏（新生メディカル 岐阜営業所）</p> <p>司会；若園優（新生元気塾）</p>

	
14:00～14:30	<p>「自宅で暮らし続ける秘訣」のトークリレー</p> 
14:30～14:40	<p>おわりのことば</p>

《アンケート結果(一部抜粋)》

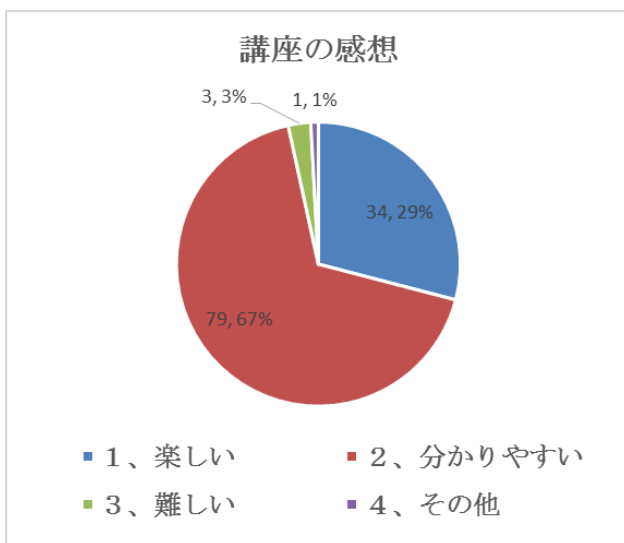
●岐阜シティ・タワー43 10周年記念市民講座

参加者 198名 アンケート回収率 57.0%

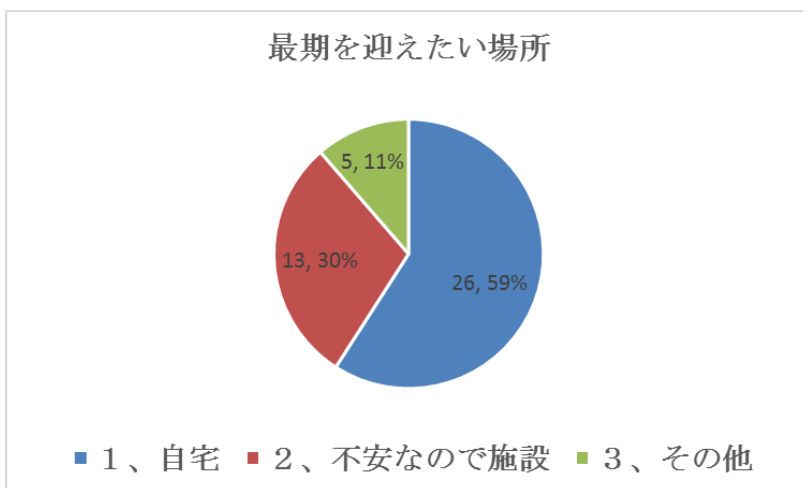
●新生元気塾 5周年記念市民講座

参加者 55名 アンケート回収率 89.0%

①講座の感想



②最期を迎えたい場所



③自宅で最期まで過ごすに当たって大切な事はなんですか？

- ・自分の意思
- ・不安で自分の意思が揺らぐと思う。自分がどうしたいか、意思決定できる力が大切だと思う。
- ・介護サービス、お金
- ・ターミナルをどう過ごしたいか意志を明確にしておくこと
- ・自分がどう生き抜きたいか決めること
- ・家族に伝える事やどの様に過ごすかは、自分はまだ考えてもいなかったもので、コミュニケーションを大切にすることだ。
- ・自分自身の意思と準備。家族が本人の決定を尊重すること。
- ・人間関係
- ・どの程度〇〇時間毎に診てもらえるか。下の世話が大変と思う。
- ・最後まで自信をもって生きる事。
- ・本人の意志を尊重してくれる在宅医、専門職の関わり。本人の覚悟。

〈その他 アンケート自由記載〉

- ・とても分かりやすかったです。最後まで その人らしく生きることについて考えさせられました。
- ・「本人の意思を尊重する勇気を持つ」という言葉、とても感動しました。
- ・在宅医療が、365日 24時間対応していただけると助かります。これが一番心配です。
- ・夫婦間でも話しにくい事を、これから徐々に重ねあって 良い考え、思いやりを大切に取り返し進めていきたいと思います。

《考察》

今回の市民講座は、2回とも「自分で決める自分の生き方」をテーマに行い、実例を基にした寸劇と、実際に看取りの支援をした在宅医療介護チームを交えパネルディスカッション等を実施した。

寸劇で取り上げたS氏、W氏の事例は、本人が「自宅で最期まで過ごしたい」という強い自己選択、自己決定がなされたケースである。

アンケート結果から、2事例を通して、多くの参加者に「(要介護状態になっても)自分の人生は自分が決める」ことの大切さが伝わったのではないかと感じている。自分が決めるという事は、医療福祉の専門職に全てお任せするという依存関係ではなく、S氏

やW氏のように自分の生き方を自己選択、自己決定し、それを医療福祉専門職に伝え相互理解を深めていく、対等な関係を持つことである。高齢者自身が、元気なうちから「どのような最期を迎えたいのか？」をイメージしておくことで普段からそのような情報にも関心が行くようになり、いざ在宅医療や介護が必要になってもスムーズなサービスを受けられる事にもつながる。

また、参加者の中には、現役の医療福祉専門職、地域包括支援センターの職員や、医療福祉専門職を目指す学生も参加していた。専門知識や技術だけでなく、「本人の思いを尊重することの大切さ」を学べた良い機会であったとの声もいただいた。

2、元気塾カフェ

●第1回 島ちゃん先生に聞いてみよう!在宅看取りって大変なの!?

日時; 9月29日 13:00~14:15

場所; 岐阜シティ・タワー43 まなびる一む

参加者数; 合計 26名

時間	内容
12:30~13:00	開場
13:00~13:30	島崎先生 在宅医療ミニ講話 <参加者からの主な質問事項> <ul style="list-style-type: none">・在宅で最期までいられる条件は何か?・近くに身内がない場合でも在宅看取りは可能か?・子、兄弟がない場合、在宅看取りが可能か?・看取り時の医療スタッフの対応や体制・料金はいくらくらいかかるか?
13:30~14:15	質問形式で座談会 

●第2回 島ちゃん先生に聞いてみよう!在宅看取りって大変なの!?Part 2

日時;平成29年12月11日 13:00~14:15

場所;岐阜シティ・タワー43 まなびる一む

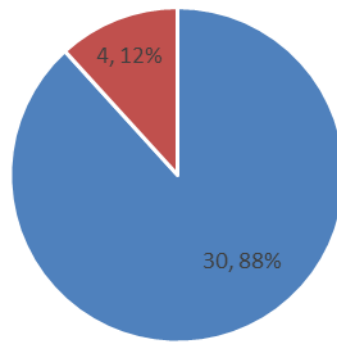
参加者数; 合計 21名

時間	内容
12:30~13:00	開場
13:00~13:30	<p>島崎先生 在宅医療ミニ講話</p> <p><参加者からの主な質問事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 癌末期に生ずる痛みに対する対応、対処の仕方 ・ 死期を知ることは可能か? ・ 看取る家族と、事前にどのように看取りの相談をするのか? ・ 亡くなる前はどのような状態になるのか? ・ (家族の立場)何も治療せず自宅で看ているだけだと罪悪感を持たないか? ・ 入院しても自宅に戻りたいと思いついた時、自宅に戻ることは可能か?
13:30~14:15	<p>質問形式で座談会</p> 

《アンケート結果(一部抜粋)》

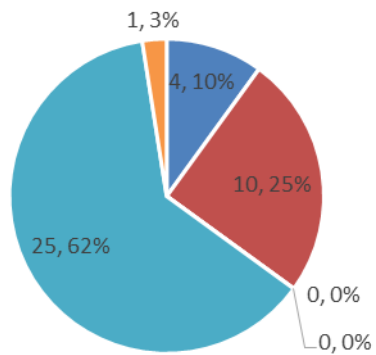
●元気塾カフェ (計2回) 参加者 47名 アンケート回収率 76.5%

要介護状態になる事に不安を感じているか？

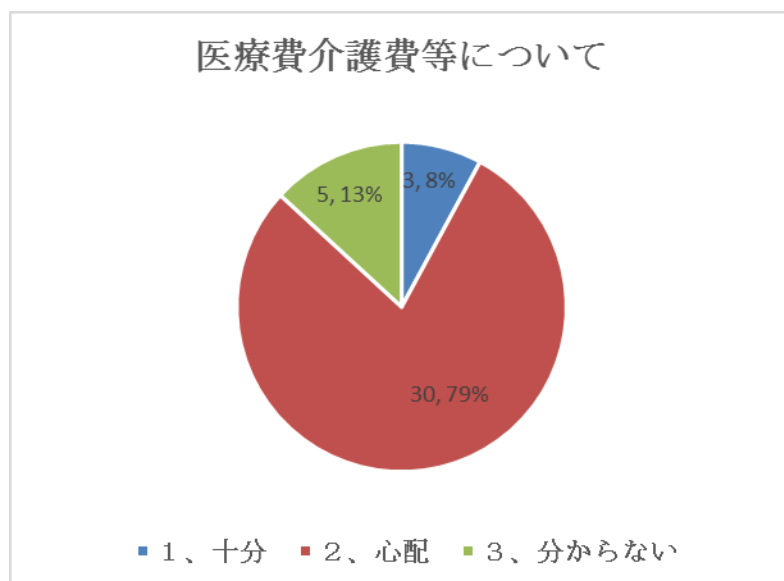


■ 1、不安に思う ■ 2、不安に思わない

誰に介護してもらいたいのか？



■ 1、夫、妻 ■ 2、子 ■ 3、兄弟
■ 4、友人 ■ 5、介護専門職 ■ 6、その他



《考察》

当コミュニティサロンが、毎月、様々なゲストを招いて開催している企画「元気塾カフェ」の内2回を、在宅医療に特化した企画として実施した。

この元気塾カフェのねらいは、セミナー形式ではなく参加者中心型で行う事、即ち「とことん当事者」「自分事から考える」をテーマに実施している。今回は、事前に住民の方から在宅医療について聞きたいことを集約し、医師を交え座談会形式で実施した。

上記アンケート結果のように、地域特性もあり、独居高齢者世帯、高齢夫婦世帯が多く、将来の介護について不安を抱え、医療福祉専門職の支援を希望している方が多い。

参加者の在宅医療についての不安や疑問を、医師を交えた少人数の対話の場(おしゃべりの場)を通して、相互に共有することができた。参加者にとっては、必要な情報の取得し、活用できるメリットがあり、医療福祉専門職にとっては地域住民の真のニーズ、困りごとを把握することができる。そこから見えてくる地域課題を、地域住民、医療福祉専門職が共有(規範的統合)し、誰もが安心して自宅で最期まで過ごせるまちづくりにつなげていきたい。

【今後に向けての課題】

平成30年、厚生労働省は「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」を約10年ぶりに見直す方針である。医療、介護の方針についての話し合いを繰り返し行い、自分で意思決定できない場合の代理人を指定することも盛り込まれている。また病院だけでなく、在宅や介護施設共通とするのも大きな変更点である。特に高齢者の場合は、予め最期はどこまでの医療を受けたいかを決めていても、時間がた

てば変わってしまう場合も多い。ガイドラインでは、患者の気持ちに変化することを前提に、医療、介護チーム、家族などと繰り返し話し合う事を重視している。

当サロンの地域でも、独居高齢者が一人で最期を迎える事例は非常に多くなってきており、今後さらに増加していく。そのため、当事者である高齢者に、元気なうちから「人生の最終段階における医療の意思決定」について関心を持っていただけるよう、「自己選択、自己決定の重要性の啓発」「多職種協働による地域完結型の在宅医療体制の普及」を行っていききたい。

この市民の集いは、
公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成により実施されました。